

「新しい戦前にさせない」連続シンポ第5回

「軍拡と『ゾンビ家制度』の罠」

連休初日の猛暑という悪条件にもかかわらず、文京区民センター2 Aに150人が参加（当日オンラインで300人）。新しい角度から軍拡と戦争に切り込む活発なシンポとなりました。

概要を報告します（文責は事務局）。「共同テーブルHP」<https://www.kyodotable.com/>
共同テーブルHPに当日の動画全編がアップされています。

基調説明

1時30分開会 総合司会は白石孝（NPO法人官製ワーキングプア研究会理事長）。「社会の根っこから政治を変えよう」と開会あいさつ。最初に「共同テーブル」発起人の竹信三恵子（ジャーナリスト・和光大名誉教授）から基調説明を受けた。

「耳慣れないテーマにもかかわらず、こんなに来ていただけてうれしい。聖域化された戦費のために公的費用を切り縮め、公的になすべきことを家庭の『自己責任』でうめる。バケツの穴から税金が軍事費にまわる。国家財政に占める軍事費の比率は日中戦争始まった1937年には69.54%、太平洋戦争始まる1941年には75.5%迄なった。それだけ社会保障は削られた。

公共サービス削減を無償の女性による家族ケアで埋める。それを仕方ないと思わせる下地作りのために、統一教会や右派政治家が夫婦別姓やLGBT法案に反発する。『女の義務だから仕方ない』と性による役割分担を固定化するためだ。軍拡の背骨は家制度だ。『世帯主』制度と女による福祉の代行を復活させようというのが『ゾンビ家制度』。『異次元の少子化対策』は軍拡だけでなくこちらにも税金を回すように見せるが、社会保険料の上乗せして財源にしている。社会保障関係費の内側で奪い合いをしているだけだ」。



パネリストの問題提起

杉原浩司（武器取引反対ネットワーク）

今国会では「軍事産業強化法」、「軍拡財源確保法」が成立し、武器輸出解禁が協議されている。23年度予算は前年を1兆4千億円上回る6兆8219億円という異常さ。米国からの武器購入費は4倍に。「軍需産業強化法」はあっさり成立した。その目的は撤退が相次ぐ軍需産業に税金を大量投入して立て直すもの。倒産しかかっている企業の施設を国が買い取る、国有化も可能に。軍事機密保護のため従業員に「守秘義務」を課す。立憲民主党は経済安保法に続き「強化法」にも賛成した。市民運動も不十分だった。「軍拡財源確保法」は財政単年度主義の原則を壊し5年で43兆円を決めた。また殺傷武器の輸出可能にするよう、国会審議なしで与党が決めようとする。

雨宮処凛（作家・社会活動家）

「人の生命を財源で語るな」と生活保護引き下げなどに抗議の声をあげてきた。コロナと物価高のトリプルパンチ。引き下げ反対の裁判は11章10敗にはなったが、相談のS

OSは増加の一途。15年前の派遣村と比べると、SOSの6割が10～30代。女性の割合も1%程度だったのが2割に増えた。女性を守る力が企業、社会、家庭から奪われている。女性の自殺が増えている。コロナの公的支援もすべて終わり、困窮者向け食事支援の場には子連れの夫婦が並ぶ。派遣村のころと風景が一変した。軍事費に税金使うより、生きていくために使ってほしい。今生活保護バッシングがあるが、戦争が近づくと障害者いじめ、いのちの選別が横行する。このままだと恐ろしい社会になる。

杉浦ひとみ（弁護士）

家制度とは天皇を頂点に据えて、戸主が家族を支配するものだったが、憲法24条により民法改正で廃止された。その時保守派は「家制度がなくても氏がある」と巻き返しを狙っていた。「選択的夫婦別姓」が20年以上も前から法制化を求めてきたのに、未だにできない。女性の社会的地位を変えさせたくないからだ。同性婚や性的マイノリティーなどを認めないのは曖昧な存在を許さないこと。LGBT法案をめぐっても、トラ



ンスジェンダーへのヘイトが頻出している。日本は夫婦同姓を法律で強制する唯一の国。

古今亭菊千代（落語家）

女性落語家はここ10年くらいで増えた。戦前は「国策落語」で「産めよ育てよ国の為」みたいのがあった。出生率低下に危機感をもった厚生省の「結婚十訓」がナチスの人口政策を参考にしてできた。落語も「子宝部隊長」などが演じられた。一方で「禁演落語」といわれ噺家が忸度して演じなかったものもある。古今亭志ん生の「ふろしき」の中に「女は三界に家無し」を「三階にいと降りるのに面倒だろ」と茶化すのがあるがこういうのも睨まれた。

なお、**福島みずほ**参院議員が参加され「人の命が紙切れのように扱われ大企業だけが重きをおかれ、軍需と原発にどんどん税金をつぎこむ。みなさんと力わせていきたい」とあいさつした。



多角的に討論

杉原 コロナ禍の際、エッセンシャルワーカーががんばっているとほめられたが、その多くが非正規だった。その待遇は改善されたか

雨宮 全く改善されていない。何かあれば生活が根こそぎ危機になる層がひろがっている。コロナの特例貸し付けの返済が1月から始まっているが、返済できない人が大勢いる。

竹信 介護施設の労働条件はさらに悪化。自治体も非正規職員を会計年度職員にしたが有期雇用の法制化で、大量に首を切れるようになった。

杉浦 中国が攻めてくるとか「台湾有事」とか、国会議員は何を考えているのか。

杉原 自民党でブレーキになっていた戦中派議員がいなくなった。維新・国民は翼賛化立憲民主をしっかりさせるため声をあげていこう。今まで通りでなく新しい議員を送りこまないと。

竹信 あまりにボコボコにやられるので「ああまたか」という感覚になっちゃう。ボコボコに負けないように。

杉原 考えられないようなことが起きている。有事に食料増産や生産・流通を統制する法改定まで政府は検討している。米農家をいじめておいて増産とはなんだ。

竹信 個人でもユニオンにかけこんで声をあげパートの時給をあげさせる闘いがある。ユニオンなど支えてくれるネットワークが大事。

菊千代 女性が噺家になるのに一番抵抗感を示したのは噺家のおかみさんたちだった。女が女の壁をとらないといけない。女が女をダメにすることもある。

杉浦 洗脳される前に起ち上がらないと。

雨宮 きびしい条件のひとつはなかなか声をあげられない。そうじゃない人たちがまらず声を。

杉原 各地で弾薬庫、シェルター設置、自衛隊司令部の地下壕化などがはじまる。そこに予算がどんどんつく。この2～3年のたたかいで未来は決まる。

竹信 旧勢力は9条と同じくらい憲法24条に抵抗する。女性を使うのがいかに福祉削減にとっても都合がいいかよく知っているから。生活から軍拡に反対していく第一歩として、今日のシンポジウムは有意義だった。

8.11第5回シンポ 参加者アンケートから

■軍拡と生活。もっともっと考え行動したいと思いました。相手は準備してすすめている。私たちも準備します。やられなれすぎになれない努力大切。(望月牛女子さん)

■家制度が天皇制、軍拡と密接につながっていること、生活問題だということ、改めて認識できました。地元の反戦アクションで周囲にわかりやすく伝えたいと思います。さらに恐怖を深めた。正気失った軍拡への道、とめたいです。(Bさん)

■ここ1~2年で「戦争する国」への諸法制と、これに基づく経済(産業)体制がものすごいスピードで進んでいることを知った。しかも、特に目を凝らして新聞等、報道内容をみないと、中々視・聴覚で捉えられない内に、であることを知らされた。これらの事態が、国会の議論も深められず、まるで「国家総動員」体制下にあるような日本の現状であることを知らされた。又、こうした状況の中で、弱者に対する支援、社会保障制度の弱体化と家族制度の戦前復帰志向など、問題は重層的な形で変わりつつあることを知らされたシンポジウムでした。(Sさん)



「新しい戦前にさせない」第6回シンポジウム 「マイナ保険証」はいらない！～徹底説明マイナンバー制度

「マイナ保険証」は、任意取得のマイナンバーカードなのに、国民皆保険制度と抱き合わせ健康保険証を廃止するという無茶な政策です。

使い勝手が悪く、便利でもないカードを普及しようと政府は「全員取得」に向け2兆円超の税金をばらまき申請率は80%近くになり、さらに増やそうと保険証に手をつけたのです。

今回のシンポジウムでは、点検を一方的に押し付けられている自治体、オンライン資格確認を強制されている医療界、障害者などが取り残されケア労働のいっそうの強化も懸念される介護の現場の声をもとに、市民の立場からマイナンバー制度を徹底検証します。

- ・主催者あいさつ 佐高信(共同テーブル発起人)
- ・基調提案「マイナンバー制度の解説と問題点」(プライバシー・アクション代表、共同テーブル発起人白石孝)
- ・「自治から考えるマイナンバー制度」(阿部裕行多摩市長)
- ・「マイナ保険証の問題点」(吉田章東京保険医協会副会長)
- ・「ケア社会をつくる会8.3シンポの報告」(小島美里暮らしネット・えん代表)
- ・「市長への要請書」(藤代政夫千葉県鎌ヶ谷市)
- ・「自治体議会意見書採択を」(伊藤とし子佐倉市議会議員)
- ・締め括りコメント「マイナンバー制度～監視と管理」(清水雅彦日体大教授,共同テーブル発起人)

- ◇日時 9月12日(火)午後6時30分~8時30分(6時10分開場)
- ◇会場 文京区民センター2階2A会議室
- ◇参加費 800円(資料代含む)